

東海大学理学部

数学科同窓会会報

第四号

【巻頭言】

東海大学特任教授 杉田 公生
同窓会の巻頭言を書くように幹事の原田三行さんから依頼があった。私も東海大学で三十余年勤めてきたが、「東海大学」の名を冠した数学科について書く資格があるのは根本精司先生迄りまでであろうと思うから、普通の数学科を想定してお話をすることにする。

数学を学ぶ喜びについて安野光雅さんが「再発見の楽しさ」とであると話されている。公理や定理の複雑な密林を自分の考えや感性で、仲間と議論しながら、時には教師の助言を得ながら難解な筋を追いついた「分かった!(Eureka!)」という気分は何事にも変え難いものである。これを「数学的な悟り」ということにすると、森毅さんが無限という概念について「ガンジスの砂の数だけガンジスがあって、その砂の数だけの倉にある金銀より悟りは尊い」という仏教の教えがあると著書の中で紹介されている。これらを繋げると、「数学を学び喜びを見つけるとは、無限大の彼方にあるものを自分の心の中に見つけ、友人と共有することである」というのは牽強附会であろうか。数学科の卒業生としては計算機のことでも忘れてもらっては困るという人には、計算機はアルゴリズムに従った処理を「いかなる場合も、永遠に」実行していることの方が私には驚異・脅威を感じる。横道になるが、日本人は仏教の無常観は理解できるであろうが、上に引いた無限の思想はどうか。

私は「総合演習」という科目を担当してきた。この科目は教職科目で、高等学校までの「総合的な学習」に対応する科目であるが、数学科であるから数学をテーマにして、テーマを選び、研究したり、調べたりして、みんなの前で発表することをグループで行うという形式で授業を進めている。そこで選ばれるテーマと発表内容が少々気になる

るので、私の感想を述べてみたい。取り上げられるテーマは、三平方の定理、黄金比、正五角形の作図、正多面体の作成、 $0.9999\dots=1$ 、素数に



関する話題など皆さんが想像されるものである。

これらの殆んどは高等学校までの学習範囲にあり、発表内容もそこまで止まっている。



この科目は3年次以上で履修するから、数学の専門科目の基本的な事項は履修済みのはずである。しかし、大学で学んだことがこういう機会に発揮されていないのではないかと、それとも現在の大学教育では応用力が足りないのではないかと、というのが私の心配である。これは東海大学だけの話ではなく、工学部進級者に定期的に学力テストをしているある大学でもその成績は高等学校までのカリキュラムに大きく影響されるという結果がある。高等学校の新カリキュラムで、数学に関して「数学の活用」や「数学の文化的な面」が設定されたのは、どの大学の教員も同じことを感じていて、外から大学教育の重要性を認めさせようという戦略が背景にあると推測する。更に、数学に限らず大学卒業生の学力保証という問題もこのコンテキストにあるものであろう。一方、大学の中では業績評価といって喧しい議論に明け暮れるようになった。

数学者第一号のタレスが星空ばかり見ていて溝に落ちて女中に笑われたという話が三千年近く語り継がれているということは、それが数学を学ぶ者の姿であることを世間が認めて来た証ではなかろうか。溝に落ちる位無限大に心を奪われることを良しとしてきた数学を学ぶ者の有り様を我々の時代で終わりにしたくないのであるが。

【数学科同窓会に寄せて】

数学科同窓会の皆様

元情報数理学科 渡辺 宏

数学科の方々には、少々場違いで、恐縮ですが、副会長、および、松田さんからのお誘いがありまして、一言、ご挨拶を申し上げます。私が東海大学へ参りましたのは、1958年、理学部が出来る前で、1999年の退職まで、お世話になりました。退職して、もう10年。数学科も情報数理学科もすっかり変わってしまい、見違えるような発展ぶりに、心よりお喜び申し上げます。

私が在職していたころ、「東海大学理学部25年史」が作られましたが、そのあとしばらくして、「東海大学理学部40年記念誌」を当時の南里理理学部長より、ご恵送いただき、その立派さに驚いたことを思い出します。なつかしい先生方、それ以上に多くの新しい先生方のご様子を拝見して、

理学部の磐石の強みに意を強くしました。

さて、私はというと、自由を満喫して、といたいところ、体がいうことをきかず、腰の具合がわるく、リハビリに通う日々ですが、自転車に乗れるのが不幸中の幸い、町田市内の近場をうろつき、本屋をハシゴし、コーヒー店で一服。本は濫読。生物関係：福岡伸一さんのものその他、宇宙関係：松井孝典教授の東大駒場講義録その他、など。数学は、あまり読んではおりませんが、パチがあたると困るので、一冊推薦しておきたいと思えます。それは、千葉克裕著：「行列の関数とジョルダン標準形」（サイエンティスト社）です。

この本は、私が買ったときも、店頭で1冊しかなく、著者が、ちっとも売れなくて、と嘆いておられますが、私は、夢中になって、読みました。

代数解析と関数解析との融合された、内容です。

著者は、かの、ポントリヤギンの「微分方程式」を翻訳された方です。私が勝手に提灯持ちをしているので、著者のご意志ではありません。

【学生時代の思い出】

1969年度卒 星野 幸雄
1970年3月(昭和44年度)に卒業しました。



現在ではあまり考えられないと思われるが、僕らの年代の数学科では、空手、柔道、少林寺、バレーボール、ラグビーなど体育会系のクラブに入部していた人が5～6人もいた。その中の一人でもあり、授業の無い日もクラブに出る為に毎日大学に通っていた日々である。



そのおかげで殆どの授業を履修したので卒業

するまでに、現在の卒業単位からすると随分多い170単位くらいを修得しました。もちろん教職科目も履修して教育実習も終えて、中高教諭の免許も取得した。また、就職活動も現在の様に3年生ぐらいからではなく4年生の12月ごろから始め2月頃に決まりました。のんびりした時代です。



1968年11月建学祭

この頃のコンピュータは代々木の本校にあり使用出来るのも数時間であった。まだ世の中にコンピュータが普及していない時でやっとトランジスターを使ったコンピュータが世の中に出始めたときで、大きさは畳み四畳(約2坪)程あったが、処理は一つしか動かす事が出来なくて、結果が出るまで時間がかかり大変であった。

この時代にコンピュータを実際に動かした事は嬉しく思い出される。現在の様にディスプレイがなくコンピュータにプログラム、データを入力するには紙テープであり、その紙テープにデータを打ち込むのに大変苦勞した思いがある。

今では紙テープなど使っているところはなく、紙テープがどんな物かわから無い人が殆どである。



紙テープは幅22.2～25.4mmで6または8個の穴がかけられ、1つの穴が1ビットを表しているので1文字は1列で表現される。

このようにコンピュータの初期の頃に情報処理の業界に入り現在のパソコン全盛の時代でインターネットなどの発達まで経験してきましたが、今は引退しました。



～数学科同窓会設立20周年に寄せて～

理学部数学科応用数学専攻

1970年度卒業(70SA):瀬川正昭

(株式会社シーエーシーHCSセンター兼 特命事項担当 理事)

数学科同窓会設立20周年、誠にありがとうございます。

20年と言うのは、何の場合も大きな節目です。設立時＝1989年は、昭和(64年)から平成元年へ年号変更の節目、今年＝2009年は、自由民主党から民主党へ政権交代の節目、世の中も丁度節目に当たりました。また、人生にも、いろいろ節目があると思います。

～そこで私の節目を考えて見ると～

・・・(18歳)東海大学入学/(20歳)成人式/(22歳)東海大学卒業・IT会社入社
/(26歳)結婚/(28歳)長男誕生/(30歳)長女誕生/(38歳)取締役就任・
/(40歳)持ち家新築/(60歳=還暦)役員退任・理事就任・・・

と、今年は私個人にとっては還暦で、まさに人生一巡第二のスタートの年です。

その精か、いろいろな節目を認識して気持ちのメリハリを付けることが、最近特に大切のように感じます。

また、大学時代の思い出を考えると、大きく二つのことがあります。

一つは、4年間通じてクラブ活動としてアーチェリー(洋弓)をやっていたのですが、これは体育会洋弓部に所属し、関東学連一部優勝まで登りつめた、汗と涙と歓喜の経験で、その後に「目標意識」と「苦勞を超える自信」という大きな財産を得ることができました。

もう一つは、～就職活動について、ある日突然の方針転換～です。

幼い頃から父親の望んでいたと思われる教職(数学教師)を、何の疑問も抱かず、当然のように目指して3年が過ぎ、4年生となって教育実習に付属校に行った際、実習経験して、これは自分は教師は駄目だと感じました。

数学の授業ではテーマに沿って公式の説明やら、例題の解法やら手順にそって丁寧にやりますが、生徒はそもそもまともに前を向いているのが3割、あとは勝手なことをやっていました。ある程度想定はしていたもののそれを超えていました。

それから何回かの授業では、彼らの8割に前を向かせて、話を聞かせる姿勢にさせることとの戦いとなりました。いろいろ都度工夫をして見まし

たが、数学の教えたテーマでは全くできず、最後の頃に、居直ってアーチェリーの経験談を話したら興味深かそうに皆が前を向き、いろいろ質問までしてきました。

それはうれしかったのですが、でも、数学の授業テーマに戻った途端、4割の生徒はそっぽを向く有様。頭はイライラ・カリカリ、そこで自分の未熟さはあるものの、これから先努力して、数学の教材で自分が教えることを職業・プロとして果たしてやっつけられるのか、自問自答したら、答えは簡単、NOでした。

それで突然の就職活動方針転換ですが、教師以外考えていなかった私が出来そうなことは、唯一応用数学の一環でちょっとやっていたコンピュータのプログラム作成などでした。それから急遽、就職活動を開始、現CACという会社に入社しました。

幸い、時代はコンピューターリゼーションが進み、後にIT業界と言われるように業界規模も大きくなり、その一員となったことは方針転換が良かったと、今になって言えますが、その当時は突然に方針転換しなければと頭をガンと叩かれ、お先真っ暗になったので、それは強烈な印象として残っています。

【同窓会の活動状況】

☆☆ 祝 数学科同窓会設立20周年 ☆☆

数学科同窓会の会員の皆様とともにお祝いしたいと思います。活動も下に説明があるように定着をしてくれています。なお一層のご協力をお願いいたします。

同窓会の運営、活動状況についてご報告させていただきます。

毎年学位授与式当日には数学科同窓会の紹介を行い入会の案内を行っております。その時に、山田同窓会長より数学科同窓会賞および副賞の授与を行っています。候補者については在学中、クラスをまとめた功績で先生に推薦を頂き選出をしています。

数学科同窓会の会報は2007年3月に創刊し年一回の発行でスタートいたしました。今回は第4号の発行になります。編集委員の方々や快く原稿を書いていただいた皆様に感謝申し上げます。

毎年11月3日には東海大学の同窓会が主催をしていますホームカミングディに合わせ、数学科同窓会も湘南校舎5号館3階において総会を行っております。多くの参加をお待ちしています。

数学科同窓会の会員数は

2009年4月現在:3683名です。



【事務局便り】

数学科同窓会の会報は先生方からのメッセージや大学の現況、さらに懐かしい先生からの思い出など、同窓生にとって有意義な情報発信できればと思っています。興味のある企画などありましたら積極的に寄せください。卒業生の一言メッセージを随時募集しています。原稿をお届けください。また広告の掲載も募集しています。掲載を希望される人は下の連絡先にお問合せください。数学科同窓会に関するお問い合わせも、下の連絡先までお寄せください。E-mail でお待ちしています。

連絡先

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117
東海大学理学部数学科同窓会事務局
事務局長：原田 三行 (70年度卒)
e-mail : zharada@tokai.ac.jp

同窓会の運営経費は会員皆様の会費によって維持されております。一口2000円(何口でも可)を次の郵便口座まで振り込んでいただきますよう皆様のご協力をお願いいたします。なお、納入者については会報に掲載しご報告とさせていただきます。

口座番号：10200-25747091
口座名：東海大学数学科同窓会

【同窓会費納入者名簿】敬称略

【2008年度】1口：安齊公士、岡本雅史
2口：小林義明 5口：山崎則夫
【2009年度】1口：大村綾子

ありがとうございました。

【訃報】

草場 公邦 先生(名誉教授)2008年10月31日71歳
今井 正隆 先生(名誉教授)2009年9月9日
同窓生の皆様と共にご冥福をお祈りいたします。

【編集後記】

今年の4月に九州東海大学と北海道東海大学が東海大学として統合され20学部87学科・専攻・課程を擁する総合大学になり、新たなスタートを切りました。

今年、仲間より、無事に定年退職した旨の挨拶状が多く舞い込んできました。人生の新たなスタートを切ったものもあり、新たなスタートが幸多かれと祈念したいと思います。

会報の編集に当たり多くの方にご協力をいた

だき感謝です。みな一步一步の積み重ねがあり進歩していくものと思います。(み)

【2009年度理学部数学科教員名簿】

湘南校舎	主任 教授	ワタベ ジュンゾウ	渡邊 純三
湘南校舎	教授	アカツ トヨロ	赤松 豊博
湘南校舎	教授	イトウ タツオ	伊藤 達夫
熊本校舎	教授	イシタ タシ	岩下 孝
湘南校舎	教授	ウチムラ ケイスケ	内村 桂輔
清水校舎	教授	ウラベ マサツグ	占部 正承
湘南校舎	教授	オオタ マサミ	太田 雅己
高輪校舎	教授	シバタ マサリ	柴田 正憲
湘南校舎	教授	タカ ミル	田中 實
湘南校舎	教授	トイ マコト	土井 誠
湘南校舎	教授	カガセ テルオ	永瀬 輝男
沼津校舎	教授	カムラ アキヒロ	中村 昭宏
阿蘇校舎	教授	ナラ チエ	奈良 知恵
清水校舎	教授	ネイ マコト	根生 誠
熊本校舎	教授	ハヤシ ヘイマ	林 平馬
清水校舎	教授	フジイ ノブヒコ	藤井 信彦
沼津校舎	教授	フルヤ ヤスオ	古谷 康雄
湘南校舎	教授	ホリエ ケニアキ	堀江 邦明
湘南校舎	教授	マツヤマ トキオ	松山 登喜夫
湘南校舎	教授	ヤマグチ マサル	山口 勝
清水校舎	教授	ワタベ シン	渡邊 信
湘南校舎	准教授	シマ アキコ	志摩 亜希子
清水校舎	准教授	ホリノ キヨシ	細野 潔
湘南校舎	准教授	マエダ ヨウイチ	前田 陽一
沼津校舎	准教授	マツダ カツミ	松田 克己
湘南校舎	准教授	ヤマモト ヨシロウ	山本 義郎
高輪校舎	講師	キタ ケンシ	貴田 研司
湘南校舎	講師	ツジ タカエ	都地 崇恵



【発行】

発行日 2009年11月3日
編集 東海大学理学部数学科同窓会会報編集委員会
発行人 山田 正和
発行所 東海大学理学部数学科同窓会
〒259-1292
神奈川県平塚市北金目1117